

Slovenia Monthly May 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年6月30日



～5月の主なポイント～

内 政： ゴロブGS党首が首相に就任、優先政策分野は保健、エネルギー及び食料価格上昇
経 済： 4月の失業率は1990年以来最低
経 済： 5月の前年比インフレ率は8.1%で2002年以来最高
治安等： 初のサル痘感染症例を確認

政治

【内政】

●連立政権の政策合意【24日、25日】

24日、自由運動党(GS)、社会民主党(SD)及び左派党の党首は連立協定に署名した。ゴロブ次期首相は、市民の意思がここまで明白でなければ、次期政権が追求する方向性、計画及び価値についてここまで迅速に合意することはできなかつただろうと述べた。ゴロブ首相候補は、連立協定は新政権の構成についても定めているものの、野党民主党(SDS)の提出した動議のため(以下「政府組織の再編成」参照)、それをすぐに実現することはできないと述べた。連帯に基づいた未来省、気候・エネルギー省、高等教育・科学・イノベーション省という新しい3省は、新しい機会、プロジェクト、知識を創設することを狙いとしている。保健分野は連立協定の中で重要な位置を占めており、各党の間でコンセンサスを見つけれられるかわからないいくつかの課題がある。左派党は公的医療と民間医療を明確に区別し、民間保険会社が徴収する上乗せ分の保険を廃止することを主張している。自由運動党は、待ち時間短縮のために開業医を関与させるべきだとしている。優先事項は新型コロナウイルスの出口戦略並びに医療改革のための緊急法案であるとしている。他の重要な優先事項として、エネルギーと食料の価格上昇への対応を挙げた。エネルギー対

策の規制については全市民を対象とし、食料の対策においては一部のみを対象とすることを示唆した。フォンSD党首は、連立与党の共同目標は、強い経済、全ての人のための社会保障、均等な地域発展及び欧州のコアにおけるスロベニアの地位確保であると述べた。次期外相でもある同党首は、現政権はハンガリー及びポーランドとの同盟を模索したが、次期政権はスロベニアを元の場所に戻すつもりであるとした。メセツ左派党首は、スロベニアがいくつかの危機に見舞われた、「失われた15年」の終結を意味し、政府は全ての人の未来のために働くことを約束した。

25日、ゴロブ党首は首相に選出され、医療問題への取り組みとエネルギー・食料価格の上昇を抑えることが第一の課題であると述べた。野党はゴロブ首相を懐疑的に迎え、新政権の「社会主義」的な考え方に懸念を示した。ゴロブ首相は、フォン・デア・ライエン欧州委員長とミシェル欧州理事会議長から祝辞を受け、より強いEUに向けて努力することへの期待が表明された。

●政府組織の再編成【6日、17日、18日】

6日、ゴロブ党首は、連立協議で、新政府が最大で4つの新省庁を設ける可能性を示唆した。将来の連立政権は、気候変動、世代間の連帯、デジタル化、

地域開発など、特定の分野を特に強化することになるだろうと述べた。

17日、臨時議会はGS、SD、左派党が提案する19省庁1官庁からなる政府の新しい機関を含む政府法の変更案を通過させた。連立政権は行政の効率性向上を見込んでいるが、野党は逆の結果になると主張した。

18日、野党SDSは、新連立与党によって提出された政府法案について、国民投票を求める動議を提出した。これにより国民投票を行うか行わないかの議会投票を行うまでに30日間の猶予が設けられることから、新政権の構成を遅らせることになるが、ゴロブ首相候補は、6月3日までの政権発足を優先させ、現ポストに合った大臣を任命し、無任所大臣はひとまずは副大臣として任命し、その後政府法改正プロセスを再開し省庁再編を行う。

●選挙後の議会編成、新議長、および首班指名【8日、13日、23日、25日】

8日、パホル大統領は、4月の総選挙の結果を受け、新議会の初会合を13日に召集する指令に署名した。

13日、スロベニア新国民議会が招集され、ウルシュカ・クラコチャル・ズパンチッチ元判事（GS副党首）が、賛成55票（連立与党（見込み）の票が53票）、反対25票で、初の女性議長として選出された。

23日、パホル大統領は、各党との協議を経て、ゴロブ党首を首相に指名することを決定した旨を発表した。

25日、国民議会は、賛成54、反対30でゴロブ党首を首相に選出した。就任直後、首相は閣僚候補の公聴会を28日に開始することとし、候補者リストを議会に提出した。

同25日、国民議会では各委員会が設立され、運営開始可能となった。SDSは当初6つの委員会の長を務める見込みであったが、NSiが財政監督委員会の委員長ポストを得て、代わりにSDSの委員長ポストが5つに減らされたことに抗議し、委員長と副委員長の候補者の指名を拒否した。委員長職の振り分けは、GS:9、SDS:5、NSi:3、SD:2、Left:1で、賛成60票、反対23票で可決した。

●新大臣候補者（注：6月に就任済み）の優先施策【28、29、30日、31日】

国会における新閣僚の承認にさきがけ、各候補者の演説が行われた。

28日、社会民主党（SD）のハーン経済大臣候補は、新政権では社会保険料の上限を設けないが、開発型雇用のための資金など、他の方法で企業を支援する可能性があると発表した。自由運動党の在外スロベニア人担当の無任所大臣候補であるMatej Arčon氏は、他の省庁と協力して実施される行動計画を

準備するために、現場の状況を把握することにつとめると述べた。また、統合・地域開発担当の無任所大臣候補であるSD出身のイエウシェク・ムルスカソボタ市長は、スロベニアはバランスのとれた地域開発を達成するために、利用できるすべてのEU資金を使用しなければならないと述べた。

29日、パピッチ教育・科学・スポーツ相候補は、教育白書、および小学校での試験の制度変更（結果を希望する中学校への入学基準の一つとすべき）について発表したのち、28日に議会の関連委員会から承認された。リュブリャナ大学の前学長であるパピッチ氏は、今後4年間で科学研究費をGDPの1.5%に引き上げるという新連立政権の公約を繰り返した。ドゥフ・デジタル変革相候補は、この分野で過去にうまくいったことを基にすることを誓った。彼女の優先課題は、デジタル・デバイドの縮小と、社会の効果的なデジタル・トランスフォーメーションへの道を開くことである。他方で、前政権の掲げたスロベニアが2026年までにデジタル経済社会指数で上位5カ国に入るという目標が現実的であるとは考えていない。

30日、ファヨン外務相候補は、ヴィシエグラード・グループから距離を保つ一方、EUの主要パートナー、特にドイツ、フランス、イタリアとの友好関係や同盟関係を強化することを計画していると述べた。EUの西バルカン諸国への拡大はスロベニアの関心事であり、西バルカン諸国に関する問題を扱う特使を任命することを発表した。また、外交政策の大きな焦点であるクロアチアとの関係について、「国境仲裁裁定は尊重されなければならない」というコミットメントを一貫して守っていくと述べた。ウクライナにおける戦争とロシアとの関係については、同候補はロシアの侵攻を「最も強い言葉で」非難したが、対話が唯一の道であると述べた。また、中国との関係についても言及し、「台北との関係を強化する一方、スロベニアは一つの中国の原則を遵守する」と述べた。また、アジアはスロベニアのビジネスにとって大きな可能性を秘めており、インドとの関係を深めるべきと述べた。

31日、以下の候補が国民議会の各委員会で自らの優先施策について述べた。

(1) ベシッチ＝ロレダン保健相候補

最初の施策として、新型コロナウイルスの新たな流行に対処するための明確な戦略を発表し、9月15日までに準備する予定であると述べた。また、今後18ヶ月の間に5億ユーロを追加で計上し、二次医療における負担を軽減するために、様々な施策で一次医療を強化する意向を示した。また、その第一歩として、今年と来年に実施される医療サービスに対して、（予算の）上限に関係なくすべて支払いが行われる予定だと述べた。

(2) クメル＝インフラ相候補

エネルギーおよびインフラ政策の指針としてグリーン・トランジションを実現することを約束した。また、鉄道や再生可能エネルギーへのさらなる投資、エネルギー価格高騰の緩和策を約束した。さらに、自然エネルギーへの投資を強化するために、自然エネルギー施設の立地を有利にする特別法の制定を発表した。

●シンコ農相候補

スロベニアの農業は、経済的効率性、環境保護、社会の持続可能性を重視し、持続可能でなければならないと述べた。また、「我々の目標は、将来の世代が健康な環境と、生存のために十分な水や土などのクリーンな天然資源を確保することではない。」と述べた。

(4)メセツ労働・家族・社会問題・機会均等大臣候補
すべての人々の福祉を提唱することを明らかにした。同候補は、貧困や不安定な労働形態との戦い、福祉手続きにおけるお役所仕事の削減に重点を置くとした。また、同省は、年金受給資格を得るための勤続年数が最長の場合、年金額は700ユーロ以上、最低賃金が800ユーロ以上となるよう努力すると述べた。また、「社会対話の復活」と「週30時間労働の実現」も計画されており、同候補は「福祉国家のもう一つの基盤」である住宅と長期介護の確立も目指している。

●ブレジャン環境相

最近議会を通過した環境保護法の変更点を発表した。また、水管理、気候、住宅政策についても発表した。さらに、環境保護の重要性を強調し、環境情報システムの構築、劣化した地域の体系的な修復、排出物に対する監視の強化などを発表した。

●ヴレチュコ文化相候補

開発志向で包括的な文化政策、メディア法および自営業者の地位の見直し、そして文化への体系的な投資であると述べた。美術史の博士号を持つ37歳の同候補は、前任者の決定事項を徹底的に見直し、すべての関係者との対話を復活させることを発表した。政治的なスタッフの配置や、文化NGOと省との対立をなくすよう促した。メディアの分野では、まずメディアの政治的従属を抑制するための緊急措置をとることが優先される。また、第2段階として、新しいメディア法と公共放送局RTVスロベニアに関する新しい法律を採択することによって、法律を徹底的に見直す述べた。

●装甲車の購入計画【4日、11日】

4日、退任するトニン国防大臣は、共同軍備協力機構(OCCAR)を通じた3億4340万ユーロのボクサー装甲車45台の購入計画が、新政府発足前に完了することを断固として主張した。同大臣は、長期的な武器契約には署名しないよう求めている次期首相候補のゴロブGS党首を、同契約のプレゼンテーションに招待した。GSと連立パートナー候補のSDと左派党は、ト

ニン大臣に対して、長期の武器購入契約を控えるように要請していた。

11日、トニン国防相は、OCCARとの間で、装甲兵員輸送車45台の購入に向けた覚書に署名した。トニン大臣が認可を受けたわずか数時間後、政府が暫定的な役割に追いやられる前日のことだった。当日、新内閣を発表した左派党メセツ党首は、新連立政権は購入に反対であると述べ、ゴロブGS党首は、「真つ当で優れた指導者は国に損害を与えることはなく、我々は自らの見解を実行するために、利用可能なすべての法的手段を用いる」と述べた。

●ヤンコビッチ市長は5期目の立候補を宣言【9日】

ヤンコビッチ・リュブリャナ市長は、秋の地方選においてリュブリャナ市長のポストに連続5期目の立候補を行う予定であると宣言した。同氏は2006年からリュブリャナ市長を務め、2011年に国政に打って出て総選挙では同氏の党「ポジティブ・スロベニア」が第一党となったものの連立政府の形成に失敗して市政に戻った際を含め、全ての選挙において過半数を得ている。

●RTVスロベニアのスタッフのストライキ【13日】

RTVスロベニアの労働組合員の大部分は、プログラム評議会の方針が耐えがたいとして23日にストライキを行う予定。ストライキでは、編集及び組織としての自治権、アンドレイ・グラフ・ワトモフ社長、ヤドランカ・レベルニク・ニュースプログラム編集長、イゴル・ピルコビッチMMCニュースポータル編集長代行及びペテル・グレゴルチッチ・プログラム評議会議長の辞任が要求されている。

23日、RTVスロベニアのスタッフは、公共放送の政治化に終止符を打ち、報道・編集の自治を取り戻すことを要求し、1時間のストライキを行った。一方、RTVスロベニアのテレビ部門の長として、2021年8月に同部長職から免職されたナタリヤ・ゴルシュチャク氏が立候補したが、プログラム評議会はこれを承認しなかった。

●React-EUの追加資金【20日】

欧州委員会は19日、スロベニアに対する2億7,700万ユーロのReact-EU資金の追加を承認した。高齢者介護、医療、観光、教育への多くの投資に使われる予定。

●来年秋の大統領選に向けた世論調査結果【23日】

1 大統領選に立候補するかもしれないとされている以下の人物を認識しているか(数字は認識している割合)。

(1)ミロ・ツェラル氏(法学者、元首相、元外相):98%

(2) ナターシャ・ピルツ・ムサル氏(法律家、元TVレポーター): 93%

(3) ヴィオレタ・ブルツ氏(起業家、元欧州委員): 86%

(4) イゴル・ゾルチッチ氏(法律家、前国民議会議長): 84%

(5) マルタ・コス氏(起業家、自由運動党副党首兼報道官、元大使(駐独、駐スイス)、元政府報道官): 68%

(6) エルネスト・ペトリッチ氏(大統領顧問、元憲法裁判所裁判官、元大使): 59%

(7) ウラディミル・プレビリッチ氏(防衛学教授、コチエウエ市長): 43%

2 大統領選挙が実施されるとしたら誰に投票するか。

(1) ナターシャ・ピルツ・ムサル氏: 16. 1%

(2) マルタ・コス氏: 15. 9%

(3) ミロ・ツェラル氏: 7. 5%

(4) エルネスト・ペトリッチ氏: 7. 1%

(5) イゴル・ゾルチッチ氏: 5. 8%

(6) ヴィオレタ・ブルツ氏: 1. 5%

(7) ウラディミル・プレビリッチ氏: 1. 4%

●2022－2025年の軍の開発プログラム【25日】

政府は、スロベニア軍(SAF)の部隊をより活動的にするために、既存の2022－2025年開発プログラム計画にいくつかのプロジェクトを含めることを決定した。これにより、SAF部隊の作業環境の安全性を向上させるため、老朽化した装備を新しい装備に交換するための資金が提供されることになる。古くなった装備の代わりに、新しい訓練用航空機とドローン技術のパイロットを訓練するためのシミュレーターが購入される予定。

●電気料金据置の終了【27日】

27日、政府による料金据置が4月で終了したことを受け、6月に支払い予定の5月分の電気代が大幅に値上がりする見込み。電気代は50%以上削減されていたが、今後は価格を据え置くプロバイダでも値上がりすることになる。消費者協会のデータによると、小売市場で販売しているプロバイダ上位6社のうち、3社が25%から100%値上げする。光熱費も上がる見込み。

【外政等】

●スロベニア・クロアチア国防相会談【3日】

3日、トニン国防相はクロアチアを訪問し、パノジッチ・クロアチア国防相と会談し、ウクライナと西バルカン情勢について協議し、軍備輸送に関する知見を交換した。両者は、二国間協力は非常に良好であると評価した。トニン国防相はまた、両国が訓練と教育における協力を強化することも提案した。

●フィンランドとのデジタル協定【6日】

5日、スロベニアとフィンランドはデジタル・トランスフォーメーションにおける戦略的協力に関する協定に署名した。アンドリヤニッチ・デジタル変革担当大臣とパーテロ・フィンランド地方自治体大臣が署名したこの協定は、人工知能とグリーンテクノロジーに焦点を当てた研究・教育機関間の協力を促進することを目的としている。

●スロベニア大使人事【10日、18日】

10日、パホル大統領は、イタリア、エジプト、アラブ首長国連邦、デンマーク、スロバキア、韓国、スロバキア等の新大使を任命する法令を官報に公布した。新大使の中には、現政権と政治的なつながりが強すぎる人物も含まれており、ゴロブ首相候補は新政権が彼らを交代させることを示唆している。

18日、ヤンシャ政権は、ドイツ、ブルガリア、ロシア、オーストラリア、日本及びポーランドに派遣されているスロベニア大使の召還を提案した。今回の提案はパホル大統領によって検討されるが、これらの大使の任期は7月31日で終了する予定。今回人事案は、既に発表された一連の在外スロベニア大使の交代に続くもので、次期連立政権はこれに反対しており、自由運動党は、候補者がヤンシャ政権とのつながりが強すぎるとして、パホル大統領に人事案の中止を求めたが、大統領はこれまでのところ、スロベニア外交に悪影響を及ぼすとし、こうした声を退けてきた。

●パホル大統領と習近平国家主席、国交樹立30周年で祝辞を交わす【12日】

パホル大統領と習近平中国国家主席は、両国の国交樹立30周年に際して祝辞を交わした。パホル大統領は習近平国家主席への書簡で、スロベニアと中国が二国間関係において達成したことを誇りに思う理由があるとし、スロベニアが「建設的な欧州と中国の関係」を支持していると述べた。習近平国家主席は、二国間国交樹立以来、中国とスロベニアは互いに尊敬の念を持って、対等に接してきたと指摘した。

●スロベニア・チェコ国防相会談【17日】

トニン国防相は、EU国防相会合に先立ち、ブリュッセルでチェルノホヴァー・チェコ国防相と会談した。国防省によると、両大臣は、スロバキアにおけるNATOの任務と、チェコが7月に就任するEU議長国の役割について協議した。トニン国防相は、EU議長国としての挑戦においてスロベニアの経験を共有したいと申し出た。また、同大臣は、チェコ議長国の優先事項が、EU－NATO協力の強化など、防衛政策におけるスロベニアの野心と一致していることに満足している。

●スウェーデン・フィンランドのNATO加盟を支援【18日】

外務省は、スウェーデンとフィンランドがNATO加盟希望を決定したことについて、両国はNATOの最も緊密なパートナーであり、全面的に支援すると表明し、NATOのドアは、加盟を希望し、加盟基準を満たす欧州の国に開かれてなければならないとした。パホル大統領とファヨン外相候補もこの動きを歓迎した。メセツ左派党党首は、フィンランドとスウェーデンの加盟についてスロベニア新政権において投票が行われる際には左派党はこれに反対し、議会においては棄権する予定と述べた。

●スロベニア・ロシア関係【19日、25日】

19日、ロシアはスロベニアに対し、10日以内にモスクワの大使館職員を4人減らすよう要求した。これは、スロベニアがリュブリャナのロシア大使館の職員数の80%削減(41→8)を要求したことを受けての措置。

25日、ロシア外務省は、スロベニア政府による「ここ数カ月間の不当な非友好的措置」に失望を表明し、外交関係樹立30周年記念の声明を発表した。これらの(非友好的)措置は、「二国間関係の発展の歴史的論理に反する破壊」を目的としているとし、いずれは「ロシア・スロベニア関係にとって自然のバランスのとれた路線に戻る」ことを確信していると述べた。

【ウクライナ関係】

●ウクライナへの追加支援【10日】

ヤンシャ首相はワルシャワで行われた国際ドナー会合に出席し、スロベニアからウクライナへ更に100万ユーロの支援を約束した。これは4月にスロベニアがグローバル支援キャンペーンとして約束した100万ユーロに更に追加となるもの。ヤンシャ首相は、我々の道徳的義務として反応したものだ述べ、支援のための法案は議会での短縮手続きにかけられると述べた。

●5,700人以上が一時的保護を求める【6日】

スロベニアではこれまでに5,738人のウクライナ人難民が一時的保護を求め、そのうち未成年者は2,149人である。一方、これまでに21,980人のウクライナ人がスロベニアに入国。難民センターに宿泊を希望するウクライナ人難民の数は減少。現在、ロガテツのセンターには316人、デベリ・ルティッチ半島のセンターには91人の難民がいる。経済支援の申請が806件あり、3分の1はすでに許可されている。88人のウクライナ難民が雇用サービスに登録し、一部の人はすでに仕事を見つけ、主に接客業に就いている。

●ドイツとの軍備スワップ協議【17日】

トニン国防相は、スロベニアがユーゴスラビア時代の戦車をウクライナに送り、より近代的なドイツの戦車と交換する(スロベニアがドイツからもらう)というスワップ交渉が停滞していることを認めたが、交渉は継続していると述べた。トニン国防相は、「スロベニアは自らのパートを終えた。ウクライナに送る予定の装備は輸送の準備ができている。どのような装備が欲しいかは書面でドイツ側に通知しており、今はドイツ側からのフィードバックを待っているところ」と述べた。スロベニアは、「今後10年から15年の間に実際に使用できる最新の装備品」にのみ関心を寄せている。

●ウクライナへの装甲車供与の決定【19日】

スロベニア政府は、ウクライナに対し、M-80A装甲車の売却を決定していたが、同取引をキャンセルし寄付することに変更していたことが明らかになった。国防省の代理として取引を管理したS Lux社がようやく買い手を見つけた後、ヤンシャ政権は契約締結から8日後に売却を取りやめ、装甲車を寄付することを決定。同車両は、今後ウクライナに寄贈される予定。同社は、政府により秘密裏に行われた行政行為が違法であるとし、その取消しを求めて、行政裁判所に仮処分を求める訴訟を起こした。検察庁と監査院も本件を調査している。

●ロガル外相、ウクライナとの連帯を表明【20日】

ロガル外相は、欧州評議会の閣僚委員会のセッションに出席し、ウクライナにおけるロシアの侵略への対応に関する討論で、ウクライナとの連帯を表明し、スロベニアがロシアの侵略を最も強い言葉で非難したことを強調した。共通の価値観や国際法の規範に違反しているロシアが欧州評議会のメンバーであり続けることは不可能であると述べた。トラス英国外相、イリア・ダルチアシヴィリ・ジョージア外相とも会談した。

経済

【経済一般、指標・統計】

●国債利回りが銀行救済後最高値に【3日】

高いインフレ率と金融政策の制限の見通しにより、流通市場での国債への関心が薄れ、国債の利回りが上昇した。スロベニアの10年債の利回りは2%を超えた。MTS電子取引所のベンチマークであるドイツ国債の利回りは、ユーロ圏が一部加盟国の債務危機から回復していなかった2015年以来、一時1%に到達した。現在は0.95%で取引されている。

●南東部ポサウイエ地方に物流拠点が誕生【4日】

南東部のポサウイエ地方に、数億ユーロ規模のビジネス・物流拠点「Feniks」が計画されている。4日、ポチヴァウシェク経済開発・技術大臣、ヴィズヤク環境大臣、モラン・ブレヅツェ市長によって覚書が締結された。同物流拠点は、高速道路とツェルクリエ・オブ・クルキ軍用飛行場の間にある100ヘクタールの敷地に、国、地域コミュニティ、EU基金からの資金で建設される予定である。

●貿易額の増加【5日】

スロベニアの3月の輸出額は前年比で23.7%増となったが、輸入額は前年比45.5%増で、引き続き貿易赤字が拡大している。本年第1四半期の輸出額は前年比21.6%増の105億ユーロであったが、同時期の輸入額は約50%増の131億ユーロを記録した。

●4月の失業率は1990年以来最低【5日】

4月末時点で雇用サービスに失業中として登録した市民は58,081人で、3月から4.1%減、前年比26.7%減、1990年以来最少の数字となった。労働者の需要は2021年1月～4月と比べて40.1%増加している。

●クロアチアのクルク島からのガス供給【20日】

スロベニアのガス販売会社Geoplinは、クロアチアのクルク島のLNGターミナルの追加容量の公募で割り当てを得ることができなかった。クロアチアの企業PPDが契約を勝ち取った。ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、スロベニアのある販売会社が現在PPDと交渉中であると述べ、この事態はさほど重大でないと述べた。また、イタリアのベニスに近いロヴィーゴの海上ターミナル経由でカタールからガスを供給する可能性があるとも述べた。

●5月の消費者信頼感、悪化【20日】

スロベニアの消費者信頼感指数は5月、前月比で4ポイント低下し、長期平均より9ポイント低くなった。

また、年間ベースでも13ポイントの悪化が記録された。同指標の4つの構成要素はすべて前月比で低下し、家計の財政状況に対する期待や主要な買い物に対する期待を測るサブ指標はそれぞれ5%ポイント低下した。

●観光に関する新たな7か年戦略【10日】

政府は、宿泊施設と量的指標の緩やかな増加を想定し、より高い品質に焦点を当てた観光のための新しい7年間の戦略を採択した。2028年の観光需要総額は、2019年比59%増となる21億ユーロの付加価値を生み出すと予想される。観光分野の国有資産を新たな持ち株会社の下に統合する計画は中止された。

●エネルギー自給率が向上【16日】

統計局のデータによると、スロベニアは昨年、エネルギー需要の53%を国内のエネルギー源で満たし、2020年と比較して2ポイント改善した。石油製品は完全に輸入に頼り、石油製品は供給エネルギーの31%を占め、原子力(23%)、再生可能エネルギー(19%)、石炭(15%)、天然ガス(12%)がそれに続いた。

●5月の前年比インフレ率は8.1%【31日】

5月の前年比インフレ率は8.1%で、2002年以来最高となった。主に燃料や食料価格の高騰によるもので、液体燃料価格は前年から43%上昇、食料は11%以上上昇している。前月比のインフレ率は2%。EU全体でも前年比で8.7%のインフレとなっている。

【企業、産業の動向】

●ポツシュ社の新工場へのインセンティブ【5日】

独ポツシュ社のスロベニア子会社は、リュブリャナ空港付近に設立予定の新製造工場に対して、スロベニア政府から最大829,308ユーロのインセンティブを得る予定。本件投資は1,320万ユーロ規模で、123名の新規雇用を創出する見込み。

●NLBグループ、第1四半期の純利益は3倍超の2億3150万ユーロに【11日】

スロベニア最大の銀行グループ、NLBの2022年第1四半期の純利益は、3月にロシアのスベルバンクのスロベニア子会社を買収したことを背景に、前年同期の3倍以上の2億3150万ユーロを計上した。中核企業であるNLBの利益は約3300万ユーロに減少した。

●ハイセンス・ゴレニェ社がトップ輸出業者に【16日】

家電メーカーのハイセンス／ゴレニェ社の2021年に輸出総額は約20億ユーロとなり、医薬品メーカー

のレク社とクルカ社を抜き、同国最大の輸出企業になった。レク社は15億9000万ユーロで2位、クルカ社は14億7000万ユーロ。他に10億ユーロの大台を突破したのは、ルノー傘下の自動車製造レヴォス社（11億8000万ユーロ）のみであった。

●BTC、昨年度は10%の増収・増益【20日】

ショッピング・物流拠点「BTCシティ」を運営するBTCグループの昨年の純売上高は、前年比8.9%増の7,240万ユーロだった。純利益は10.7%増の650万ユーロ。新型コロナウイルスにもかかわらず業績は予想を上回ったとし、今年もさらなる成長が計画されており、純売上高が7940万ユーロに達する見込みであることを明らかにした。なお、昨年は510万ユーロを投資に充当している。

●ペトロール社、第1四半期は売上高倍増、純利益17%増の3,240万ユーロに【20日】

ペトロール社は、今年第1四半期の売上高が前年同期比2倍以上の19億4,000万ユーロとなり、純利益は17%増の3,240万ユーロになったと発表した。クロアチアの燃料小売業者Crodus社をグループに取り込んだことが大きく影響している。

●ルカ・コペル、第1四半期の純利益は約2倍の1,600万ユーロ超に【27日】

港湾事業者ルカ・コペルの第1四半期の純利益は1,650万ユーロで、2021年同期比91%増となった。売上高は23%増の7,090万ユーロで、積替品は18%増の約590万トンだった。EBITDAは61%増の2,740万ユーロ、税引前利益(EBIT)は101%増の1,970万ユーロとなった。積替品はすべての貨物分類で伸びを達成し、合計でコンテナが268,100個（4%増）、車両が176,900台（5%増）。

治安等

●詐欺事件【1日】

5月下旬、平日の午後、コペル市民からオンライン詐欺の被害に遭ったという届出があった。犯人はマイクロソフトの従業員を装って電話をかけ、英語で自己紹介をした後、証明書の有効期限が切れており、復元するために3ユーロの支払いが必要だと説明した。被害者が犯人の指示に従ってオンライン銀行に登録後、コンピューターの画面に表示されたフォームにカード番号と3ユーロの金額を入力したところ、その後口座から多額のお金がなくなっていることに気付いたとのこと。

●コチェウイエの産業爆発【12日、13日、16日】

12日、コチェウイエの化学工場メラニン社で爆発と火災が発生し、6人が負傷、5人が死亡した可能性がある。負傷者のうち2人は重傷を負った。市民保護・災害救援局によると、火災は消火され、有害物質も封じ込められたとのこと。

13日、ポチヴァウシェク経済大臣はメラニン社を訪問し、爆発後の支援策等について、EUの規律に基づき、100%の損害がカバーしうるとした。

16日、火災による損害は、約3,600万ユーロと見積もられた。同社CEOによると、監督官庁に事故の詳細を説明し、生産再開計画について支持を得た。改修のためのEU資金を求める予定。

●サル痘の感染症例【23日、24日、25日】

23日、スロベニアで初めてサル痘の感染例が確認された。スペインのカナリア諸島から帰国した男性が感染した。非公式の情報によると、この男性は入院しておらず、症状は軽いとみられる。国立公衆衛生研究所(NIJZ)は、自宅で治療中のサル痘ウイルス感染者のための指示として、感染者は自宅待機し、接触を制限し、推奨事項に従って、医師が決定した期間、原則としてかさぶたが消えるまで病気の蔓延を防ぐ必要がある。濃厚接触者への指示も含め、NIJZのウェブサイトから得ることができる。

政府は24日、サル痘を感染症に含めることを決定し、すべての医療従事者が新たな感染者を管轄官庁に報告することが義務付けられた。接触者追跡やその他の疫学的手続きのためのプロトコルを導入するための法的根拠となる。25日には、2例目のサル痘患者が確認された。同感染者もスペインへの渡航歴が確認された。

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●世界報道自由度指数で18ランクダウン【3日】

国境なき記者団(RSF)がまとめた最新の世界報道の自由度指数で、スロベニアは18位下がり、180カ国中54位となった。スロベニアについて、報道の自由を守る法的枠組みは依然として強固だが、メディアは政治的圧力や市民参加に対する戦略的な訴訟の対象となっていると述べている。専門家は、2020年以降のヤンシャ政権によるジャーナリストへの攻撃とメディア領域の解体の結果であると分析している。

●ミシュラン・シェフのロシュ氏がクロアチアの海岸リゾートにレストランをオープン【9日】

クロアチアの報道によれば、コバリドにあるレストランHiša Frankoのミシュラン・スターを持つアナ・ロシュ氏が、来年クロアチアのサヴドリアにある高級海岸リゾートにレストランをオープンする可能性がある。セルビア人実業家が手がけるペトラム・リゾート&レジデンスでは、クロアチアのホスピタリティ分野においてこれまでで最大規模の投資となる。

●VeraceとPop 's Pizzaが欧州ピザレストラントップ50にランクイン【14日】

リュブリャナのピッツェリア、VeraceとPop 's Pizzaは、最新の50toppizzaガイドで欧州のトップ50ピザレストランにランクインし、前者は2年連続のランクインとなった。Veraceは4つ順位を上げて31位、Pop 's Pizzaは43位で初めてランクイン。

●モニター企業56社における女性管理職の割合は23%に【15日】

40/33/2026イニシアティブの一環としてデロイト・スロベニアらが監視している国有・上場企業56社のうち、4月末時点で男女比の目標が達成されている企業は30%だった。平均して、経営委員会の女性比率は23%強、監督者の女性比率は26%だった。発表された13社に焦点を当てた報告書によると、監督委員会の女性比率を40%、監督委員会と経営委員会の女性比率を合わせて33%とする目標に対して、4社が前進していることが示された。

●リュブリャナに新しいマルチプレックスシネマがオープン【25日】

リュブリャナに新しいマルチプレックスシネマがオープンした。ルドニックのショッピングモール内に、7つのシアター、計1,357席を備えた大型映画館。オー

ストリアのCineplexx社が運営し、クラン、コペル、ノヴォ・メスト、マリボル、ツェリエ、ムルスカ・ソボタに劇場を持つスロベニア最大の映画チェーンである。

●スロベン・グラデツ市で日本映画週間を開催【30日】

20年以上前に日本の妙高市と姉妹都市締結をしたスロベン・グラデツにおいて、日本映画週間が開催され、日本とスロベニアの外交関係30周年を記念して、日本の桜の木が植えられた。第一日目の上映後、松島浩道駐スロベニア日本大使とティレン・クルゲル・スロベン・グラデツ市長が、日本とスロベニアの外交関係30周年を記念して文化センター横に元気な桜の木を植樹した。

【スポーツ】

●アイスホッケー、エリート部門に進出【6日】

スロベニアは、チボリ・アリーナで行われたアイスホッケー世界選手権ディビジョンIのグループA第3戦でハンガリーを5:1で破り、エリート部門への進出と2023年のIIHF世界選手権への出場を決めた。スロベニアはこの試合で3勝目を挙げ、グループAでの首位通過となった。

●マドリッド・レディスオープンで3位入賞【8日】

スロベニアのプロゴルファー、ピア・バブニックは、マドリッドで開催された賞金30万ユーロのレディース・ヨーロッパアンツァー・トーナメントで3位に入賞した。今シーズン初のメジャー大会であったシェブロン選手権(カリフォルニア州)の3位に続く快挙。

●カヤック、ワールドカップで3つのメダル【22日】

スロベニアのアニャ・オスターマン選手は、21日チェコで行われたカヤック平水200メートルスプリントの部門で優勝した。同じくスロベニアのシュペラ・ポノマレンコ・ヤニッチ選手は3位に入賞。さらにヨシュト・ザクライシェク選手が5キロの部門で銅メダルを獲得。

●カヌーのサウシェク選手が欧州チャンピオンに輝く【29日】

スロバキアで開催されたカヌースラローム欧州選手権で、C-1種目のオリンピックチャンピオンであるカヌー選手ベンジャミン・サウシェクが4度目の欧州チャンピオンとなり、欧州選手権におけるスロベニアの15度目の金メダル獲得となった。また、新オリンピック種目となった女子エクストリームカヌースラロームでは、アイダ・ノヴァク選手が銅メダルを獲得した。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●当館は、令和4年4月1日から、在外選挙人登録申請の際の本人出頭を免除する特例措置を開始しています。遠隔地にお住まいの方や在外選挙人登録申請のために来館できない特別な事情がある方など、一定の条件を満たす方は、ビデオ通話を通じて本人確認及び事前に送付又は託送された提出書類の原本確認を行うことによって、来館いただくことなく、在外選挙人登録申請ができます。

【当館HP】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000092.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。また、ご提出いただいている「在留届」について、住所変更や同居家族の帰国等、記載事項に変更が生じた場合には変更届を、第3国への転出や日本への帰国の際には転出・帰国届をご提出いただきますようお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続の際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに約2～3か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>
(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>
(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>
(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●赤石路代漫画原画展開催

漫画家として長年活躍されている赤石路代先生の漫画原画展を開催します。

○開催期間: 6月15日～8月末日

○会場: Knjižnica Šiška

○住所: Trg komandanta Staneta 8, 1000 Ljubljana



(c)赤石路代

●日スロベニア外交関係樹立30周年記念絵画交流展実施

日本とスロベニアの現代アーティスト計 22 名の作品(絵画、オブジェ等)を、リュブリャナ市庁舎内のアトリウムに展示します。参加アーティストは、日本側は、濱野年宏氏、永井崇幸氏、寒川典昭氏など計6名、スロベニア側は、アンドレイ・イエメツ氏など 16 名です。

○日時: 2022 年 6 月 29 日(水)～7 月 27 日(水)

○会場名: リュブリャナ市庁舎内アトリウム

○住所: Stritarjeva ulica 2, 1000 Ljubljana

○主催者／共催者: 当館、リュブリャナ市、美術団体 RYU

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版(英語音声)を配信しております。

[Embassy of Japan in Slovenia - YouTube](#)

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>